



# 菊池のかんがい用水群が 世界かんがい施設遺産に登録

江戸時代に造られた井手(用水路)が9月4日、国際かんがい排水委員会(ICID)が認定する「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

【問い合わせ先】農林整備課 耕地係 ☎0968(25)7222

## 世界かんがい施設遺産とは

国際かんがい排水委員会(ICID)は、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全を目的として、世界かんがい施設遺産制度を創設しました。建設から100年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したものの、卓越した技術により建設されたものなど、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を登録・表彰しています。

登録により、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、研究者・一般市民への教育機会の提供などや、かんがい施設を核とした地域づくりに活用されることが期待されています。

国内では39件が登録。菊池のかんがい用水群は県内4件目になります。



インドネシア・バリ島での表彰式

## 登録されたかんがい用水群

菊池の井手の中で、今回かんがい用水群として申請した施設である「築地井手」、「原井手」、「今村井手・宝永隧道」、「古川兵戸井手」は菊池川を水源とす



(上)宝永隧道の見学会(左下)築地井手(右下)原井手の清掃活動

る水田かんがい用水路群です。4つの用水路の築造は、平野部から山間部に向かう水田開発の歴史的な流れに依りて、菊池川の下流から上流へと進められました。

今から約400年前の1615年(江戸時代初期)、熊本の当時の治世者である加藤清正によって築地井手が築造。その後、農業土木技術や社会制度の発達を受けて、1701年と1705年(江戸時代中期)に、惣庄屋の河原左衛門によってそれぞれ原井手と今村井手・宝永隧道が築造されました。全長約11.5kmの原井手には、熊本で最古の水路トンネル(全長約450m)が現存します。また、今村井手の宝永隧道区間(全長約300m)には、通気用の竪穴をはじめとして水路トンネルの開削における基本的な工法が当時のまま残っています。1835年(江戸時代末期)には、庄屋の五島

郎右衛門と平山八左衛門によって古川兵戸井手が築造されました。

菊池川で最後に作られた古川兵戸井手は利水において下流地域から厳しい制限を受けたため、その築造過程には、隣接流域からの導水計画、管理者である江戸幕府との水利権調整などさまざまな苦労がありました。また、黒っぽい崩れやすい石灰岩質の山間部を貫通する水路トンネルの開削など、当時最高の農業土木技術が集約されています。

地域住民の生活を大きく改善した4つの用水路は、これまで地域住民によって適切に維持管理され、数百年間経った今も機能を低下させることなく約615年間の水田を潤しています。

## 井手を活用した取り組み

原井手では、夏季限定でカヤックを使った水路下り「イデベンチャー」を運行。また、宝永隧道の施設見学会など、井手を活用した取り組みを実施しています。今後は、井手を活用した地域活性化を検討していきます。



原井手を活用したイデベンチャーを体験する子どもたち